

宮代町郷土資料館だより

えんがわ

第33号

企画展

宮代紀行 西原地区を行く

「宮代紀行」と題して、町内の各地域の特色ある歴史や文化、民俗行事について紹介する企画展です。今回は、江戸時代初期や明治時代～昭和の中ごろまで行政の中心地であった「西原地区」を取り上げました。

西原地区は、地蔵院遺跡等の発掘調査によって、2万年前頃から人々が移り住み、以来、連綿と人々の暮らしが営まれてきました。こうした、西原地区の歴史と文化について、「西原の信仰と行事」、「縄文時代のムラ」、「館と寺院」古文書に見る西原」、そして、「西原の風景」として写真で見る西原の様子を展示しました。以下、それぞれのコーナーについて紹介します。

西原の信仰と行事

西原地区には、古くから行われているムラの信仰や行事がいろいろあります。

1月24日は、勝軍地蔵尊を祀る「地蔵様の縁日」です。当番が団子を作り、勝軍地蔵尊にお神酒と共に供えます。また、団子を各家に配ったりします。

2月1日は、「万年講」と呼ばれ、榛名講と大



万年講の様子

山講の代参を決める日です。

2月（古くは3月）初めての午の日を「初午」といい、子どもたちが青林寺にある稲荷神社でお籠もりをしました。

3月末から4月初めには、榛名神社を信仰する榛名講が行われ、同じ時期、大山阿夫利神社を信仰する大山講（石尊講）が行われました。

縄文時代のムラ

西原地区には、地蔵院遺跡や伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡などの遺跡があります。ことに、地蔵院遺跡は現在の郷土資料館、ふれ愛センター、百間小学校一带に広がる遺跡で、縄文時代の住居跡などの遺構や遺物が多数発掘されており、縄文時代のムラの一端が明らかになっています。

地蔵院遺跡の調査は、昭和 61 年度以降 8 か所ほど行われた。その結果、旧石器時代約 2 万年前の石器をはじめ、縄文時代の住居跡は早期（約 7,000 年前）4 軒、前期（約 5,500 年前）5 軒、中期（約 4,500 年前）7 軒が発掘され、当時使われた土器や石器も多量に出土しました



やかた 館 と 寺 院

西原には、集落の中央をほぼ東西に貫く一本の道があります。長さ約 500 メートル。馬場跡であったと伝えられ、江戸時代中期の地図にも描かれており、古くから西原地域の主要な道であったことが分かります。

平成 12 年度、平成 13 年度に行われた伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡の発掘調査では、この道の北側のやや奥まったあたりから 15 世紀後半～16 世紀の堀の跡や当時の陶器類等が出土しました。

一方、この道の東側にあたる郷土資料館付近でも、14～16 世紀の館の跡等が発掘されています。さらに、資料館近くにある地蔵院には、平安時代末期から鎌倉時代初期の阿弥陀如来坐像（町指定文化財）があります。西光院

の阿弥陀三尊像（国指定文化財）に次ぐ、古い仏像です。

このように、東西につらぬく道に沿って古くから館等が造られており、中世百間領の中心的地域であったと考えられます。



古文書に見る西原

西原地区は、江戸時代の初め百間領三千石を領した旗本服部氏の支配地でした。服部氏の支配の岩槻藩小笠原氏領、再び天領と変わり、享保 10 年(1725)頃から旗本森川氏の支配となり、幕末まで続きました。こうした中、西原地区は百間村の一部として西原村とも私称され、江戸時代中期頃からは百間西原組と称されるようになりました。さらに、西原組は上組と下組にわかれ、今日の西原地区は大部分が下組に属していました。

また、西原地区には、明治 17 年からの百間中村連合戸長役場が青林寺に置かれました。さらに、大正 14 年には百間小学校前に百間村役場庁舎が完成し、その後、昭和 35 年宮代町中央に宮代町役場新庁舎が完成するまで使用されるなど、江戸時代初期や明治時代以降の行政の中心地であったと言えます。



平成 19 年度の来館者傾向について

平成 5 年 11 月の開館以来、15 年の月日が流れました。これまでの期間には、毎年 1 万人を超える多くの皆様にお越しいただきました。ここでは、平成 19 年度に来館された方々にご協力していただいて集積したデーターを基に、来館者の傾向を見てみたいと思います。

平成 19 年度中にご来館くださった方は、10,489 人でした。この方々の中で、表 1 にある「来館者票」の記入に御協力くださったのは 1,809 人でしたので、約 17% の記入率ということになります。より正確な分析のためには少ないデーターですが、詳しく見ていきたいと思います。

来館者票			
ご来館日 平成 年 月 日			
恐れ入りますが、該当する箇所へ○（マル）をお付けください。			
どちらからお越しになりましたか？			
町内			
県内（市町村）			
県外（都・道・府・県）			
おいくつですか？			
～10才	～20才	～30才	人
～40才	～50才	～60才	人
～70才	～80才	～90才	人
91才～	人		
何名でお越しになりましたか？			
人			
(内 男性 人・女性 人)			
ご協力ありがとうございました。			

※表 1 来館者票

「郷土資料館」というと、「町の歴史に関するもの」が中心となっていますので、宮代町の方が圧倒的に多いと予想される方もいらしたかと思いますが、実際は宮代在住の方が来館される割合はほぼ半分という結果になりました。

では、埼玉県内ではどのような傾向になっているのでしょうか。来館者数が多い順に挙げていきますと、春日部市 164 人、さいたま市 118 人、杉戸町 99 人、久喜市 98 人、白岡町 42 人、幸手市 36 人、越谷市 36 人と、宮代町と境界を接している市町か、あるいは東武線沿線からが多いことがわかります。(表 2 参照)

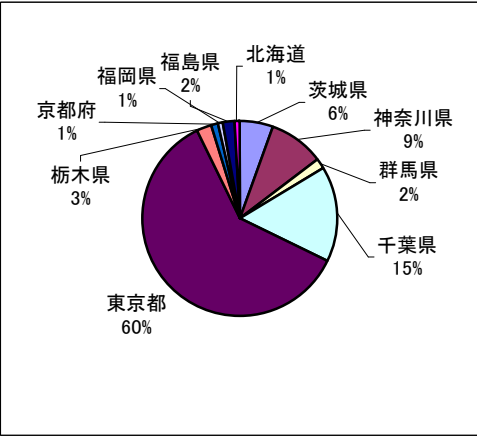
	人数		人数		人数		人数
春日部市	164	草加市	14	三郷市	4	菖蒲町	1
さいたま市	118	川口市	12	新座市	3	戸田市	1
杉戸町	99	鷲宮町	10	羽生市	3	鳩ヶ谷市	1
久喜市	98	北本市	9	鴻巣市	2	東松山市	1
白岡町	42	蓮田市	8	児玉町	2	日高市	1
越谷市	36	上尾市	6	富士見市	2	三芳町	1
幸手市	36	松伏町	5	本庄市	2	八潮市	1
伊奈町	25	和光市	5	入間市	1		
川越市	21	栗橋町	4	大利根町	1		
加須市	16	深谷市	4	行田市	1		

※表 2 県内市町村別回答数

次に、県外からの来館者はどのようなになっているのでしょうか。

県外からの来館者数は 6% にしか過ぎませんので、その年の

展示テーマなどにも影響されてしまう可能性が大きいのですが、お話をうかがってみると東武線沿線であることが多いようです。北海道や京都府、福岡県など遠方からいらした方も見受けられま



※表 3 県外からの来館者割合

すが、親戚の方や友人の方に宮代町を案内してもらった・という方が多かったようです。

世代的にはどうでしょうか。左の表 4 は年齢別の割合を示しています。「～10 才」あるいは「～70 才」の方が比較的多いことがわかります。学校で宮代町の歴史を学び始める小学生や、子育てや仕事を終えられた世代の方が多いようです。

最近発表された内閣府の調査でも、生涯学習志向が高まっていることが指摘されています。資料館においても、企画展や特別展など期間限定の展示だけでなく、古文書講座や郷土史講座、あるいは夏休みの子どもの向け講座「郷土資料館へ行こう！」を開催するなど、生涯学習志向における需用にも応えられるような活動をしてきてはいますが、それらの活動を支える基礎的な仕事である資料の収集、保存、研究などを進め、あるいは皆さんの希望をうかがいながら新しい講座を開催するなど、職員一丸となり、より一層がんばっていききたいと思います。皆様からの「熱い・厚い・篤い」応援、よろしくお願いいたします。

年齢	人数	割合
～10才	386	21.3
～20才	110	6.1
～30才	139	7.7
～40才	194	10.7
～50才	190	10.5
～60才	326	18.0
～70才	372	20.6
～80才	90	5.0
～90才	2	0.1
91才～	0	0.0

※表 4 年齢分布



江戸中期の岩槻城絵図をいよいよ初公開

一昨年度、字金原の関根さん宅で岩槻城の絵図が発見されました。この絵図は、城郭のみならず武家屋敷や城下町まですべて描かれているもので、大きさは約3m四方もあります。今まで、城下町まで含まれた岩槻城絵図については、江戸時代前期の阿部氏時代のものと江戸時代後期の大岡氏時代のものは確認されていましたが、江戸時代中期のものとしては初めての発見です。

宮代町郷土資料館では11月1日から「企画展 宮代町と岩槻城」でこの絵図を初公開する予定です。併せて、岩槻藩領時代の宮代町の古文書や岩槻城の発掘調査で出土した遺物も展示する予定です。

展示会を前に、この初公開される江戸時代中期の岩槻城絵図の内容について一部を紹介したいと思います。江戸時代後期の絵図とこの絵図とを比較すると、細部で多くの違いが確認できます。城郭内では、まず堀の役割を持つ、沼の水位の違いが確認できます。江戸時代中期の絵図では、沼が元荒川に隣接し、城郭主要部から新曲輪に到るまで水色に描かれていますが、後期の絵図は干上がっており、一部には新しい道も確認できます。また、

後期の絵図には三の丸に居宅（城主の御殿）が、二の丸には御成門があり、二の丸に將軍家の御成御殿があったようですが、中期の絵図には二の丸に居宅や表門が確認でき、城主の御殿が二の丸にあったことが分かります。本丸には「此所先年御成御殿在之由」とあり、以前將軍家の御成御殿があったことも分かります。この他、城下町でも富士宿町付近の道の違いなども確認できますので、皆さんも、時代の違う絵図を比較しに郷土資料館にいらしてみたいはいかがでしょうか。



江戸時代中期の岩槻城絵図 本丸・二の丸付近

資料館日誌抄

- 4月1日 岡安家文書及び前原遺跡草創期微隆起線文土器が宮代町指定文化財に指定される。
- 4月16日 山崎山遺跡試掘調査
- 4月23日 道仏北遺跡試掘調査
- 4月26日 企画展「藍色の風景」（7月13日まで）
- 4月26日 季節展示「五月人形」（6月17日まで）
- 5月2日 姫宮八幡神社建造物調査
- 5月29・30日 前原中学校チャレンジ2days
- 6月10日 須賀小学校3年生社会科見学（86名）
- 6月24日 東小学校3年生総合学習（10名）
- 6月25・26日 百間中学校チャレンジ2days
- 6月28日 第1回文化財保護委員会
- 7月3・4日 須賀中学校チャレンジ2days
- 7月9日 宿源太山遺跡試掘調査
- 7月19日 企画展「宮代紀行～西原に行く」（10月26日まで）

資料館寄贈者名簿

金子三晴氏 民具、陶磁器
金子和生氏 古写真

宮代町郷土資料館だより えんがわ 33号

発行日 平成20年7月31日

発行 宮代町郷土資料館

郵便番号 345-0817

住所 埼玉県南埼玉郡宮代町字西原289番地

電話番号 0480-34-8882

H P <http://www.town.miyashiro.saitama.jp>